



令和6年11月22日

## 世田谷区立明正小学校5年生の児童が造船所を見学しました

### ～ご協力：ジャパン マリンユナイテッド(株)横浜事業所磯子工場～

関東運輸局では、「世田谷区立明正小学校」からのご依頼を受け、令和6年11月5日（火）に、ジャパン マリンユナイテッド株式会社横浜事業所磯子工場のご協力のもと、5年生の児童を対象に造船所施設見学会を開催いたしました。本見学会では、造船所から解説をいただきながらの工場内見学が行われました。

また、当局は、児童の皆様には海の仕事幅広く知っていただくことを目的として、公益財団法人 日本海事広報協会との協力のもと、我が国の海運の現状及び造船業・船員・港湾運送業の仕事を紹介しました。

関東運輸局では、「世田谷区立明正小学校」からのご依頼を受け、令和6年11月5日（火）に、ジャパン マリンユナイテッド株式会社横浜事業所磯子工場のご協力のもと、5年生146人の児童を対象として造船所施設見学会を開催いたしました。

本見学会開催は、明正小学校では、“日本ではどのように工業生産が行われているのだろう”というテーマで学習をしており、実際にモノを製造している現場などの見学をお願いしたいとの要望から始まりました。

関東運輸局では、当該要望に応えるとともに、少子・高齢化による若い働き手の減少により労働力不足が深刻化する中、1人でも多くの若者に海に興味をもってもらい、海事産業の人材を持続的に確保していくことが大きな課題となっていること、平成29年には、小・中学校の学習指導要領が改訂され、海洋教育が実施されるようになったことを踏まえ、管内の小学生、中学生等の学生を対象に、海の仕事について学び、少しでも興味をもっていただくことを目的として、本見学会を開催いたしました。

本見学会では、造船所よる船の造り方に係るプレゼンテーション・建造ドックなどの工場内見学が行われ、児童の皆さんは間近に見る船の大きさに驚いていました。また、「船は何年かけてつくられるの」「一番大きな船はどのくらいの大きさなの」「船の名前は どうやってつけるの」など活発な質疑応答が行われました。

また、当局では、我が国の貿易の99.6%を海上輸送が占め、国内貨物輸送の約4割を海上運送に依存し、我が国の海運が産業や暮らしを支える基盤となっている中、海運を支える仕事として重要な造船業、船員及び船港湾運送業の仕事を幅広く知っていただくため、公益財団法人日本海事広報協会との協力のもと、我が国の海運の現状及びこれらの仕事を紹介しました。

当局としましては、今後も、次世代を担う若い世代に、広く海の仕事の魅力ややりがいについて理解を深めていただくよう努めてまいります。



【問い合わせ先】

国土交通省関東運輸局海事振興部 船舶産業課 担当：白土・橋本

電話：045-211-7223 FAX：045-201-8788

(配布先) 神奈川県政記者クラブ、横浜海事記者クラブ、東京都庁記者クラブ、物流専門紙